先進事例検索システム

事例No.	1009	
公表年度	R1	
団体の属性	市区	
団体名	兵庫県尼崎市	

事例区分 (大)	行政改革
----------	------

事例区分	EBPM		
------	------	--	--

事例種類	EBPMの取組			
------	---------	--	--	--

事例内容・タイトル

「学びと育ち研究所」によるEBPMの推進

出典

地方公共団体における行政改革の取組(令和2年3月27日公表)

★EBPMの取組②〈兵庫県尼崎市 (人口約45万人)〉

- 子ども一人ひとりの状況に応じ、実社会を主体的に生きていくために必要な力 (学力、豊かな人間性、生活 習慣など) を伸ばしていけるよう、小1から中2まで、学力と生活実態に関する全数調査を毎年実施し、 データを蓄積。
- <u>外部の研究者等を迎えた「尼崎市学びと育ち研究所」を設置して、行政のビッグデータを分析し、</u> 施策の効果検証から政策立案へつなげる。

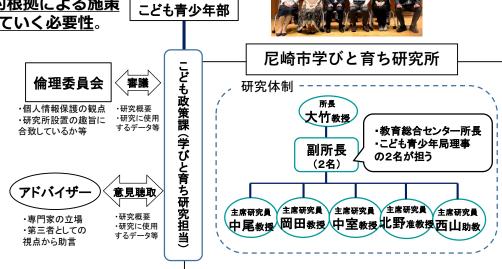
〈「学びと育ち研究所」によるEBPMの推進〉

課題

○ 子どもたちの学力や非認知能力のさらなる向上のため、<u>科学的根拠による施策</u> **効果の分析を行い、事業の見直しや効果的な事業に予算を配分していく必要性**。

取 組

-) 庁内及び教育委員会のデータを繋ぎ合わせた上で加工し、<u>研究</u> 者が分析できるデータを作成、庁内での承認スキームを構築。
- (不十分なデータを補完して活用するため、名前の一部分と学校名しかないデータから個人を特定する作業を行ったほか、倫理委員会やアドバイザーの運用方法の整備など)
- 小1から中2までの学力及び生活実態の調査を毎年実施し、 データを蓄積。既存の行政情報 (乳幼児期の健康情報や教育施策、就学援助 等の有無) と学力・非認知能力の相関を分析。
- **⇒ 科学的根拠に基づく効果的な政策立案、事業の見直しの実施へ**



成果

- 過去に実施してきた「そろばん授業」の効果を検証。「**算数の成績が上がるが効果は少なく、やり抜く力(GRIT)が上昇するが、 自己肯定感が下がる**」という結果を踏まえ、**令和2年度予算では他の事業に転換**。
- 〇 「早生まれ (1月から3月に出生) であることと、学力・非認知能力との関係 (相対年齢効果) 」を検証したところ、**相関が確認されたため、** - **その差を埋めるための介入を実施し、効果検証を行う**。(検証中)
- 市内の民間事業者が実施する低所得層に対するバウチャー制度や、第三の居場所事業について、<u>利用した児童としていない児童と</u> **でランダム化比較試験による効果検証を行い、事業実施や政策立案の参考とする**。(検証中)

こども青少年局